

| | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------|--------|--------------|----------------|--------------------|---------------|------|-----|
| 科目ナンバリング | | U-LAS02 20015 SJ36 | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | 日本近代文学基礎ゼミナール Introductory Seminar on Japanese Modern Literature II | | | | 担当者所属 職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 須田 千里 | | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | | 分野(分類) | 芸術・文学・言語(各論) | | 使用言語 | 日本語 | | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール(対面授業科目) | | |
| 開講年度・ 開講期 | 2026・後期 | | 曜時限 | 金5 | | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | |
| 梶井基次郎の短篇小説を読む。 | | | | | | | | | |
| 梶井基次郎は旧制三高で学んだ、いわば先輩に当たる。また、繊細で幻想的な作風は根強いファンを持っている。 この授業ではその短編集『檸檬』を取り上げ、皆で分担して読み、作品内容の理解・注釈・先行論文の読解による新たな作品像の構築を目指す。意見交換することによって、お互いの知見を高めていきたい。 | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | |
| 受講生は、自分が担当した作品について、自分なりのアプローチを行いながら、それを自分の言葉で論理的に発表できるようになる。ほかの受講生は、当該作品に関して素朴な疑問や発表内容への質疑を通じて、批判的読解力の養成を行い、作品理解を深めることができるようになる。 発表者と他の学生との質疑、意見交換により、互いに相手の考え方を理解し、自分の考えを明確に述べるようになる。 | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | |
| 1. ガイダンス(授業の進め方など)と梶井基次郎の概説、授業の進め方の説明。 受講者各自で教科書から好きな作品を選び、順番を決めて発表していく。発表に際しては、作品のあらすじ、語句の注釈を行った上で、自分独自の論点を文章にまとめ、レジュメとして配布し、30分程度で発表する。残りの60分程度は、他の受講生との質疑応答や意見交換に費やされる。 2～14. 教科書に掲載された以下の作品について、受講生が適宜好きな作品を選んで発表し、みなで質疑応答を行う。 「檸檬」「城のある町にて」「泥濘」路上「橡の花」「過古」「雪後」「のんきな患者」「ある心の風景」「交尾」「Kの昇天」「闇の絵巻」「冬の日」「愛撫」「桜の木の下には」「ある崖上の感情」「器乐的幻覚」「冬の蠅」「蒼穹」「笥の話」 15. フィードバック | | | | | | | | | |
| 【履修要件】 | | | | | | | | | |
| 特になし | | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法・観点】 | | | | | | | | | |
| 平常点(質疑や意見表明の回数、内容)40パーセント、発表(論理的に自分の言葉で発表できたかや、質疑での他の受講生とのやり取りの成熟度)60パーセント。 5回以上欠席した者は、成績評価の対象としない。 | | | | | | | | | |
| ----- 日本近代文学基礎ゼミナール(2)へ続く ----- | | | | | | | | | |

日本近代文学基礎ゼミナール(2)

[教科書]

梶井基次郎 『檸檬』 (新潮文庫) ISBN:978-4-10-109601-8

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

発表担当の学生は、各自がA4プリント3~4枚程度にレジュメをまとめ、発表する。そのための作成時間が必須である。

受講生は、発表者の意見や教員の話がより深く理解できるよう、事前に教科書を読み、関心のある点・気に掛かる点・分からない点などを事前に考えておく。その上で授業に出席し、質問や意見を述べる。

[その他(オフィスアワー等)]

積極的に発言すること。

教室の規模に応じて受講者数を制限する。

発表順は早い者勝ちかじゃんけんで決めるので、スケジュール調整しておくこと。発表時の無断欠席は単位なし。

[主要授業科目(学部・学科名)]

総合人間学部